京城日報　朝刊

香港全島、完全に占領

大本營陸海軍部發表（廿八日午後零時卅分）＝香港攻略に任ぜし帝國陸海軍部隊は敵の降伏によりその裝を解除し廿六日午後六時香港全島の占領を完了せり

香港・九龍にきのふ晴れの入城式
英の侵略を物語る高廈尻目に大行進
攻城軍將士感激に噸熱し

【香港二十八日同盟】開戰以來僅かに十八日徹底的に英軍を叩きのめし勝利の榮光燦と輝くわが攻城軍の晴れの香港、九龍入城式は昨日までの暖氣に引きかへ寒氣に身のしまる曇天の二十八日香港灣頭を壓して堂々擧行された　この日午後二時酒井攻城軍最高指揮官、新見南支方面海軍最高指揮官は晴れの日の感激に泣いて堵列する將士の閲兵式を先づ九龍界限街に擧行、次で午後三時香港側ブレーマーカド第三碼頭に上陸、自動車で攻略戰中の最激戰地ドラ灣入口に到り馬に乘換へて香港の心臓部ヴイクトリヤ市の入城式に移つた、同灣入口からヘネシーロード皇后大道にかけて最右翼○○部隊、○○部隊、○○隊の順で堵列の將兵は苦闘を物語る戎衣を身に纏ひ胸を張つて司令官の入城を待つ、陸海軍軍樂隊の奏樂が嚠々とヴイクトリヤ灣に谺するや○○部隊長の先導で酒井陸軍、新見海軍兩最高指揮官の閲兵が開始された、（ヘネシーロードから皇后大道へ）英國百年の侵略を物語る高等法院、香港上海銀行などの高層ビルを尻目に一千將士の敢闘を閲する行進は續く、カメロン競馬場の激闘に華と散つた英靈も、屹立する大平山の絶壁からこの感激に咽び泣いたことであらう、一方午後二時卒からは香港攻撃に殊勲を樹てた陸海航空部隊の大編隊が九龍、香港の上空を堂々と壓して翔過いて陸の閲兵式に呼應、わが軍勝てりの歡喜は最高潮に達した、大平山北麓で閲兵を終つた陸、海最高指揮官一行は午後四時香港政廳官邸に入り聖寿萬歳奉唱裡に勝利の乾盃を行ひ感激の日の幕を閉ぢた

皇軍勇士堂々香港に入る（電送）

民衆皇軍に信賴　香港島の治安回復

【香港二十八日同盟】さしも英國が難攻不落を誇つた香港もわが猛攻に脆くも陷落して早くもけふ二十八日で四日目、この間二十六日早朝香港島に進駐したわが軍の手により英軍の武裝解除、鹵獲品の整理も着々進行、二十七日までに判明した捕虜數は六千餘名を數へるが、これと同時に同島の治安も完全に回復されつゝあり『皇軍入城以來泥棒が減つた』と支那人がいつてゐるほどである、まづ水陸交通においては特殊禁止區域を除き華人、英米人の自由通行も許されヴイクトリヤ灣における機雷の掃海が完了すれば九龍、香港島間の自由交通も出來る狀態にまで達しつゝあり[illegible]なども皇軍の手に接收、回復工事が急がれて廿七日には早くも一部電話の開通を見るに至つた、物價は戰亂以來五倍から物によつては卅倍に騰貴したといはれたが皇軍入城とゝもに安定を見せ、廿七日には豚肉一斤四元、牛肉三元、野菜一元、鶏卵一元（全部香港ドル）と皇軍入城以來漸く下りつゝあり、皇軍に對する民衆の信賴を如實に示してゐる

陸、海軍最高指揮官　感激の握手　香港の輝く將來を約束

【香港二十八日同盟】十二月八日大東亜戰争の火蓋が切られるとともに逸早く香港方面の海上を壓し陸軍部隊と緊密な協力のもとに今次の輝かしい大戰果を擧げた南支方面海軍部隊が晴れ上つた紺碧の水の滴い香港水道に旗艦○○を先頭に艦列堂々その英姿を現はしたのは二十七日午前十時であつた

いま一際のもとに見るその威容を思へば實に華々しい武勲の二十日間であつた、これらの艦艇は英帝國東亜侵略百年の歴史を守る牙城香港周邊の監視にまた港內に蟄居してゐた敵驅逐艦、魚雷艇、砲艦などの艦艇に一發必滅の意氣をもつて當り、敵航空機の襲撃と敵潜水艦の奇襲をものともせず寒風を克服して四六時中一瞬時も休む間なく蟻一匹も逃さないと漸次敵を撃破した、その間港內の英國魚雷艇が高速を利用して遁走しようとするのを撃破し一部艦艇は香港南方で海底電纜遮斷に成功して香港の孤立化しまたストンカッターの新要塞に對し陸戰隊を上陸させて敵軍需品倉庫の占領に成功、さらに陸戰隊は九龍半島香港島にも上陸、かくて海陸から香港周邊の敵を徹底的に制壓し、また敵がわれに備へて港の內外に無數に敷設した機雷も見事に克服してつひに二十五日夕無條件降伏の歴史的事實を展開したのであるが二十六日香港を突入した時は完全な姿をした敵艦艇は一隻もなくしかもこの間に擧捕した敵艦船は實に二百隻といふ赫々たる戰果をあげたのであつた、入港したわが海軍の精鋭全艦艇は所定の位置についた

海風にはためく軍艦旗のすがくしさ、この日午後三時新見海軍最高指揮官は酒井陸軍最高指揮官を訪問しついで酒井陸軍最高指揮官の答禮があり、陸海軍の兩首腦部の間には感激的な固い握手が交されたのであつた、輝く軍艦旗の下にいまやジョンブルの羈絆を斷つて大東亜共榮圏の一角として明朗な第一步を踏み出さんとする香港の輝く將來がこゝに堅く堅く約束されたのであつた

……クライを占領後、快速進撃を斷行○○日その先遣隊は東海岸の要衝○○に突入、敵は南方に……

總督府辭令（廿七日附）
京城府總務部長に　千田忠北內務部長

任道事務官（三等）命忠清北道內務部長　橋原弘

任本府府尹（五等）命全州府在勤　黑木儀壽主

府理事官　小松榮　任本府府尹（六等）命光州府在勤

陞叙高等官二等　京畿道參與官　平松昌根　咸南道參與官　山木文忠　京城帝大教授　奥平武彦

陞叙高等官六等（各通）

陞叙高等官五等（各通）

[illegible]

空、陸、海三方面から　日本軍の壓力益々増大
米比軍　決定的の打撃

マニラ戰線

上海特電【廿八日發】マニラ來電によればアメリカ極東軍司令部はフイリツピン戰局は廿七日最高潮に達し、マニラ北方のリンガエン灣方面の戰線は混亂狀態に陷つた旨次の如く發表した

ルソン島南部戰線においてはラモン灣沿岸地區一帶に亙り激戰展開中であるが、アメリカ軍は各所で決定的打撃を蒙りつゝあり、廿七日夜から日本軍はリンガエン灣及びラモン灣のアチモナン方面より續々新鋭部隊を上陸せしめつゝあり全線に亙る日本航空部隊の爆撃はます／＼熾烈を極めて來た、日本軍は今やマニラに向つて空、陸、海三方面より總攻撃を開始しつゝある

ブエノスアイレス特電【廿八日發】アメリカ海軍省は廿七日マニラ周邊における日本航空隊の猛襲に關し次の如く發表した

一、日本航空隊は廿七日マニラ港を空襲、數隻の商船に爆彈を命中せしめたほかその他の數隻に火災を生ぜしめフイリツピン沿岸警備艇四隻を大破した

一、日本航空部隊はキャビテの海軍基地を空襲アメリカ驅逐艦一隻に爆彈を命中損害を與へた

米、比島への増援を濫る
比島人の反米感情昂まる

上海特電【廿八日發】アメリカ軍當局は廿八日比島政府に對し比島の危局打開のために即時比島男子を動員比島人部隊を組織して日本軍の進攻に當るべしと要請したと傳へられるが比島人の間にはアメリカの屬領たる比島の防備の責任を比島人のみに負はせアメリカ軍の増強を濫つてゐるアメリカ軍當局に對する反感が漸次増大する傾向にあると言はれる

忽ちペラ全州席巻
壯烈極まる敵前渡河敢行
早くもセランゴール州に迫る

マレー戰線

【○○基地廿七日同盟】わがマレー進撃部隊は○○日敵の天然の要塞と恃むマレー西岸の大水流○○河の敵前渡河に成功し南岸の各敵軍を急追中である、この電撃的渡河の成功によりわが軍はペラ全州を席卷し早くもセランゴール州境を脅かに至り南岸地區の英軍は大混亂に陷つてゐる

【○○河岸にて廿七日同盟】マレー・ジットラーライン突破後マレー防衛の生命線として必死の防衛に當つてゐたマレー第一の大水流たる○○河の敵前渡河に成功、[illegible]つてこの魔の大水流征服戰を見ることが出來た、わが進撃部隊は一部[illegible]○○河北岸に進出し河岸の要衝○○を占領したがさらに瞬時の休息もとらず○○河敵前渡河の大壯擧を敢行したのだ、この邊河幅は廣いところで三百メートルを越え乳白色の見るからに不氣味な濁水が渦をまいて奔流してゐる、その上河岸は水面まで廿メートルもある斷岸で河岸から矢のやうな流れを見下すと眩惑を感ずる文字通りの魔の河である○○附近に架けられた鐵橋と道路橋は二本とも敵の破壞戰術の犠牲となり、中央部が八十メートルばかりぽつきりと河中に折れ込んでゐる、敵はわが巨砲の狙撃となるのを恐れ早くも南岸陣を撤退南方○○キロの丘陵線に陣形を布いてわが軍を狙つてゐる中を午前九時先づ一番隊が敵前渡河の火蓋を切つた、內地と二時間の時差があるマレーではこの時刻は未だ夜が明けたばかりで白濁の海霧には淡い靄が立ち籠めてゐる、南岸の椰子の樹に繋いだロープを頼りに渡河用の舟艇を漕いで[illegible]して降りた勇士達は、さつと身を翻して舟艇に飛び乗り瞬間に[illegible]を離れた、○○隻の一番隊は奔流に流されながらも見る／＼うちに對岸に突進した一隻、二隻、勇士等は折から輝き出した朝日に鐵兜を燦かせながら、次から次と對岸へ飛び上つて行く、敵の放列が轟然たる咆哮とゝもに猛砲火を集中しはじめた、しかしわが軍はこれを物ともせず一番隊は[illegible]さらに敵陣を目掛けて決死の突進をつゞける、かくて同九時四十分一番隊は全員無血渡河に成功、敵が天然の要塞と恃んだ魔の大水流はこゝに完全に征服されたのだ、わが先陣部隊が突進して[illegible]となつた、こゝに南岸○○地區で[illegible]はジットラーライン突破以來の激闘が展開されたが○○日この敵もわが果敢たる渡河部隊の重壓下に壞滅的打撃をうけ南方に潰走し、わが軍は敗敵を急追、さらに猛進をつゞけてゐる

壯烈、オルドス草原の立體戰
歳登一帶の敵陣を悉く奪取
空陸一體更に猛攻撃

【オルドス前線○○にて二十八日同盟】オルドス平原の敵殲滅戰に向いて進撃中の窪田、高瀬、松山、中山の諸部隊は○○方面より同じく横田部隊は○○方面より挾撃態勢を整へ廿六日未明敵陣地攻撃を開始およびその南方一帶の敵陣地を攻略後同日夕刻には早くも歳登北方一帶の敵陣を悉く奪取、引きつゞき○○方面に向け夜を徹して猛進撃をつゞけ窪田、山崎、高山の各部隊は二十八日早くも紅柳をさらに北進中である、一方○○部隊は二十七日早朝歳登をさらに東北に轉じ呼坪召による敵を撃破、多大の戰果を收めた、この戰鬪でわが軍に協力する蒙古軍の勇猛オルドス挺身隊は最前線に勇戰、またわが荒鷲群は果敢なる低空爆撃を浴びせ殘敵のオルドス草原を壓して壯烈なる立體戰を展開した

英印度軍司令官更迭　ウエーヴエル將軍はビルマ防衛に

【ヴイシー廿七日同盟】ロンドン廿七日發アヴアス電によればウエーヴエル英印度軍總司令官は今後ビルマの防衛にあたり、また印度軍參謀長ハットン中將はカニンガム中將の後を襲ひリビヤ駐屯軍司令官に任命された旨廿七日英政府より發表された

歌はぬ勝利（103）

山中峯太郎作　高木清畫

愛と血（四）

隆は、公子の充血してゐる美しい瞳をすぐ上から見つめると、

「どんなことがあつても泣く奴があるか、貴公に似あはんぞ」

励ますつもりでいひながら、声をひそめて、

「こなひだ逗子の隆のところへ、公は相談に来たといつたナ。今も何か相談することがあるだらう。何を泣いとつたんだ」

眞劍に愛はしくさう云ふ隆を、公子はまじ〳〵と見ながら、かたくなつてゐた。

――こゝにも、ひとりの男性がゐる。

ふしぎに今までは、隆を、ちつとも氣のおけない、お友だちだと思つてはゐたけれど、「男性」などといふことはまるで氣にもしてゐなかつた、その隆が突然今は目の前にすつくと一人の男性・異性になつて立つてゐる。公子は涙にぬれてゐるハンケチを、兩方の手の

「うん……」

隆は口ごもつた、が、

「おれの胸は、完全に治つたと診斷されたんだ。何をしてもいゝ。全然、支障なしといはれたんだ」

「さう、それはほんたうに好かつたことね。おめでたう。あたしもきつと治つてゐると思つてたのよ」

公子の目が、純眞にかゞやいた。

「ありがたう……」

隆も、心から微笑したが、また口ごもつてしまつて、

「……うむ、それで隆は新に、心機一轉したんだ…貴公に對して」

「あたし、どうして」

「いや、森夫人から何か聞いとらんか」

と、隆は、いよ〳〵顔を赤くした。

「森の伯母さまのところへ、あたし、しばらく、うかゞはないわ」

「さうか……」

「なんなの、隆さん、はつきり云つて」

「……云ふぞ」

隆は幾度も口ごもつたが、決然として云つた。

「公子、おれは貴公を完全に、おれのものにしたいんだ」

公子は、ハツと顔いろをかへたが、眉をひそめたまゝ訊ねずにゐられなかつた。

「そんなことを、どうして思つたの、いけないわ」

――いけない。

これは嚴に言葉の調子で、さう云つただけにすぎない。否定の意味では少しもなかつたのを隆の方は、まともに、それを受けとると、

「いかんか、貴公は、……承諾せんと、云ふのか」

自分の兩方の手を握りしめて、堅い拳をつくりながら、くりかへしていつた。

「いかんといふのか。うゝむ、さうか、公子……」

さきに、まるめたりひろげたりしながら、つぶやくやうに云つた。

「さうよ、相談に行つたわ」

「見ろ、さうだらう」

隆はうなづくと、

「だから、今も相談することがあるんだらう。この前は、お母さまにも、龍君にも、相談する氣がしないと云つてたぢやないか」

龍といふ名を聞くと、公子は、ジツと眉をひそめた。

「どうだ。今日は家も近いし、隆とは云はんぞ。貴公の思つてゐることを、こゝで隆に話してくれんか。おれも云ひたいことがあるんだ」

急に隆は躊躇しだして、あかくなつた。

「さう、では、隆さんから先に話してよ、何なの」

公子は自分も眞劍になつて訊きかへした。